



大雨・台風では、どのような災害が起こるのか

7月から10月にかけては日本に接近・上陸する台風が多くなり、大雨、洪水、暴風、高波、高潮などをもたらします。また、川の氾濫や土石流、がけ崩れ、地すべりなどが発生しやすく、人々の生活や生命が脅かされるような自然災害が度々発生しています。

最近では短時間に狭い範囲で非常に激しく降る雨が頻発し、特に宅地等の開発が進んだ都市部では、川の急激な増水が生じたり、道路や住宅の浸水、道路のアンダーパス等の地下空間の水没といった被害も発生しています。

また、雨で増水した川や田んぼを見に行き流されてしまったり、浸水した道路で側溝の境界が見えにくいために転落したりする事故も発生しています。



大雨・台風の時はどのように行動したらいいか？

台風や大雨の危険が近づいているというニュースや気象情報を見聞きしたら、危険な場所には近づかないようにしましょう。

災害への備えをもう一度確認して下さい

- 非常用持ち出し品の点検をしましょう
- 非常用持ち出しバッグの準備、できていますか？**
(災害に対するご家庭での備え 右側のQRコードからご覧ください。)
- 雨や風が強くなる前に、家屋の補強などの対策をしましょう
- 避難場所までの道順を確認しておきましょう
- 日頃からハザードマップで危険箇所や避難場所をチェックしておきましょう
- 雨が降り出したら土砂災害警戒情報等にも注意しましょう
- 危険を感じたり、市町村長からの避難指示等があった場合は、あわてず速やかに避難しましょう
- 避難の前には、必ず火の始末をしましょう
- 避難の際の持ち物は最小限にして背中に背負うなど、両手が自由に使えるようにしておきましょう



※ 川の氾濫や土砂災害などの災害は一気に起こるため、避難が遅れると命にかかわります。天候が荒れてからでは移動も大変になりますので、特に高齢者や幼い子どもがいる家庭などは、警戒レベル3高齢者等避難が出たタイミング等、早い段階から避難しましょう。

※ 忘れ物をした場合でも、取りに戻るのには危険ですので絶対にやめましょう！

※ 暴風や浸水で避難場所への避難が危険な場合は家の中のできるだけ安全な場所（崖から離れた2階の部屋）で待機したり、近隣のできるだけ頑丈な建物へ移動することも考えてみましょう。

しゅしょうかんでい いんりょう
(首相官邸HP引用)